



コミュニティ推進協議会 待望のホームページ開設へ 多様なコミュニティ活動が一目で

日立市コミュニティ推進協議会のホームページを開設し、会の多様なまちづくりを紹介し、現在、ホームページが揃う日が待たれます。

単会も準備中

日立市コミュニティ推進協議会では、コミュニティ活動の情報発信をテーマの一つとし、情報紙「こみこみ」の発行だけでなく、ホームページ開設を掲げてきましたが、今年度ようやく実現します。

現在準備中ですが9月中にはアップロードします。コミュニティ推進協議会の歴史や、活動の基本方針などを紹介しながら、多様な活動を続けている23のコミュニティ推進会の、単会ホームページにつながるようにしていきます。全単会のホームページが揃えば、小学校区をエリアとした日立市のまちづくりを、一目で見ることができ、住民主体のまちづくりに一層の弾みがつくことになります。

各単会では早期のホームページ開設に向けて力を注いでおり、8月末日までに8単会がアップしています。平成9年7月の塙山学区に続き、日高学区、会瀬学区、金沢学区がすでに立ち上げており、今年度に入って

中小路・仲町・中里・助川学区と続いています。現在、他の単会でも開設に向けて奮闘中です。

百年塾も開設を応援

コミュニティ推進協議会のホームページ立ち上げには、百年塾情報部

には15単会が参加し、ページ作りの実際、リンクのかけ方、ページの増やし方、画像処理、アップロードなどを学びながら、開設へ向けて準備をしてきました。

アップロードした単会ではホームページを充実し、地域の特色や歴史なども発信したいと夢や抱負がいっぱいです。

単会へ作成のための補助金

今年度、コミュニティ推進協議会では、各単会でのホームページの作成を支援するため、助成金を補助することになりました。

今年度中に作成する単会と、すでに開設している単会にも補助されることになり、一段と作成が進むと同時に充実していきます。



会の内藤達郎さんに応援依頼をしました。市民活動課と情報推進課がともに関わり、日立市のホームページから、コミュニティ推進協議会のページに入れるようにしました。

また、今年の3月と6月に、コミュニティ推進会を対象にした、百年塾主催のホームページ作成セミナー



集中しています！セミナー参加者

第25回地域づくり団体 全国研修交流会茨城大会の開催 日立市のテーマ 「協働のまちづくり」

全国各地の地域づくり活動に取り組む方々が一堂に会する全国研修交流会が茨城県で開催されます。

県内16会場の一つに日立市が名乗りを上げました。「市民と行政との

協働のまちづくりへ」をテーマに3学区コミュニティ推進会が事例発表をします。

- とき 平成20年2月1日・2日
- ところ シビックセンター（予定）
- プログラム
- ①事例発表（予定）
 - ・日立市のコミュニティ活動
 - ・地域で育む元気っ子事業

- （会瀬学区コミュニティ推進会）
 - ・市の花「さくら」を活かす活動
 - （仲町学区コミュニティ推進会）
 - ・市民総参加のスポーツ大会
 - （日高学区市民自治会）
- ②交流懇親会
 - （ふるさと自慢など）

●詳細についてはお問い合わせ下さい。

落書き消し キャンペーン 単会からの100名余 汗だくの作業

コミュニティ推進協議会では、平成19年7月1日から施行されている「日立市落書きの防止に関する条例」が、広く市民に周知されるようにと、環境フェアに合わせて8月4日（土）、うだるような炎天下、23単会からの100余名の参加者により落書き消しキャンペーンを実施しました。

出発式ではコミュニティ推進協議会の鴨志田勝雄会長のあいさつに続き、専門家による模範作業を見学、その後、各班が「のぼり旗」を先頭に、5班に分かれ作業場所へと移動しました。

作業場所のA地点は市役所周辺、B地点は銀座通り（鹿島町1丁目）、

C地点は銀座通り（弁天町1丁目）の3地点としました。参加者の汗だくになりながらの懸命な作業によってきれいな町へと変身していきました。しかし、個人所有物である店舗壁面やシャッター等には、手をつけられずそのままの状態になっていて、美観を損ねているのが残念でした。



きれいなまちに変身

環境部門コミュニティ推進者のつどい実行委員会の瀬谷俊一委員長は、「猛暑の中、各単会に4～5名の動員をお願いし、日立市の目抜き通りの落書き消しキャンペーンを実施しました。今回の作業は東京電力関連施設と個人所有の物件を除きました。デモンストレーションとしては大きな成果があり、抑止力につながると思います。銀座通りは七夕祭の前日であり、町がきれいになったと商店会から大変喜ばれました。条例はできていますが運用や取締り、個人所有物への対応など、課題が山積したままです。これを契機に各単会でも独自に落書き消しを実施してほしい」と話しました。

多様な事業を協働で

最近ではコミュニティ推進会の多様な事業を、市民はもとより、行政や各種団体・機関との協働で実施することが多くなり成果を上げています。

道路里親に 久慈中の生徒も

道路の環境美化活動を日立市と地域の住民が協働して、道路を守り美しいまちづくりを進めている久慈学



作業がはかどるよ

区コミュニティ推進会は、2002年（平成14年）に、茨城県道路里親制度の日立市内第1号として認定されました。

久慈学区コミュニティ推進会の呼びかけで、平成17年の秋から、久

慈中学校も課外学習の一環としてこの運動に参加、6月と11月に実施する花の植え替えの時には、市民と一緒に作業をしています。

今年の6月の作業の日には、久慈中2年生の90名と、コミュニティ関係者30名が、国道245号線のおさかなセンター付近の1.4kmに、サルビアやマリーゴールドを植えました。

色とりどりに並んだ花は、散歩中の人たちや、車の渋滞でイライラしているドライバーの心を癒してくれると喜ばれています。

食育も 学校や家庭の枠こえて

子どもたちが元気で健康に育つためにと、元気ひたち健康づくり市民会議と、金沢学区コミュニティ推進会、会瀬学区コミュニティ推進会が、

今年度から協働で「子どものための食育総合講座」を実施しています。それぞれの学区で募集した子どもたちが元気に参加しています。

この講座は専門家の指導で体験を通して、正しく幅広い食の知識を学



金沢と会瀬合同の買い物ツアー

ぶことを目的に、5月から10月までの期間に8講座を実施しています。

学校や家庭の枠を超えたプログラムが組まれており、みそ造り、農業と調理実習、漁業見学、スーパーマーケット買い物ツアー、栄養学など多彩です。

子どもたちは毎回初めての体験をし、自分たちで栽培した夏野菜の成長と収穫を楽しみにしながら、講座に参加しています。

「ねんりんピック」日立市に816名 交流コーナー運営や周辺清掃で協力

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の高齢者を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。

今年の11月10日（土）から4日間にわたって、「さわやかな長寿の風を茨城に」をテーマに、「ねんりんピック茨城2007」が、県内21市町を会場に開催されます。

日立市では卓球（会場：市民運動公園中央体育館）と、ターゲット・バードゴルフ（会場：河原北浜スポーツ広場）の2種目が開催され、

全国から816名の選手を迎えます。

役員や選手の皆さんを心をこめてもてなし、日立の印象を深めてもらおうと、コミュニティ推進協議会では、会場と周辺の清掃などに全単会が協力します。

中小路学区は合同開始式会場、十王地区～成沢学区は卓球会場、油縄子学区～坂下地区はターゲット・バードゴルフ会場、会瀬学区と河原北浜学区は、ふれあい交流コーナーを担当します。



「ハッスル黄門」マスコットキャラクター

資源化を図るため プラの回収が始まっています

家庭系ごみの減量化や資源化の普及を図るために、市環境衛生課では「ごみ減量キャンペーン」を実施しています。コミュニティの行事などにキャンペーン隊が出向き、身近で手軽にできる減量方法や、その効果などを紹介しています。

また、ペットボトルを除くプラスチック製容器包装の資源化を図るため、店舗や交流センターなどでの拠点回収にも取り組んでいます。現在、10ヶ所の拠点で実施中です。



埴山交流センターでも

安全・安心のまちづくり 青色防犯回転灯の設置に補助

青色回転灯を装備する自動車を使用して、自主的に防犯パトロールを行う団体に補助金を交付することが、7月19日（木）のコミュニティ推



防犯活動に大活躍

進協議会の会長会議で、日立市生活安全課から報告されました。

これは安全・安心なまちづくりに関して、市民などが自主的に行う活動を支援するためのもので、青色回転灯購入と設置に要する経費の3分の2が補助されます。

補助を受けるには、青色防犯パトロールを行う団体として、市長から委嘱を受けていることが必要ですが、この支援によって各コミュニティ推進会での取り組みが前進し、青色防犯パトロールカーによる防犯活動が広く行われることによって、住民に安心感を与えるとともに、防犯意識の向上にも期待されます。

単会も準備中

今年も「日立の魅力再発見ウォーク」を19のコミュニティ推進会で実施します。（詳細は9月20日号の市報をご覧ください）

十王交流センター建設中

今年度中の完成を目指して、現在の交流センターの駐車場になっていた場所に、新しい（仮称）十王交流センター（鉄筋コンクリート造平家建、延床面積1,283㎡）を建設中です。

十王交流センターは市内にある交流センター同様、自主グループ活動



十王交流センター完成予定図

をはじめ、住民のコミュニティ活動の拠点として、地域福祉や生涯学習事業が実施されます。

その一方では、全国唯一の鵜飼用ウミウの捕獲地として有名な、十王の特色を活かした機能を備え、鵜飼いで有名な全国の都市と連携した数多くの事業を実施して行く予定です。施設の外観はウミウをデザインしていますが、地域住民の交流はもとより、全国各地の方々の交流の場としての他の交流センターとは一味違った交流センターのオープンが待たれます。



単会リレー訪問

特色ある活動を紹介

小学校区をエリアにコミュニティ活動をする団体が23あります。地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て支援、

生涯学習、環境など地域の特性を活かした活動を進めています。今号からは単会の特色ある活動を紹介していきます。

町内会の組織率が高い 中里学区コミュニティ推進會

中里中学校の敷地内に昨年新設された交流センターを訪ね、中里学区コミュニティ推進會会長の石川諒一さんと同事務局長の和田慶紘さんにお話を聞きました。

豊かな自然が広がる中里学区は、高齢化率が38%と高く、若年人口の減少に悩む地域ですが、地域のみなさんは、交流センターを活動拠点とし、各種団体が専門部として参加し、地区選出の役員が環境、防災、



みんなが主役

青少年、広報などの部を担当する地域総合型のコミュニティ推進會をつくっています。

それぞれの部が、地域にあった活動を自主的に、工夫して進めています。

中里学区の特徴を發揮して行っているものに、幼稚園や小学校の学習発表、中学校の澄水祭、地域のふれあい祭りや文化祭などを、同じ日に、中学校や交流センターの施設やグラウンドを利用して一斉に開催してしまうという、文字通り地域をあげてのイベントがあります。幼児からお年寄りまで、地域みんなで、発表者になったり観客になったり、中里なら

ではのイベントです。

もともと、住民としての義務的な活動には率先して参加し、町内会への住民の未組織の問題は皆無に等しい地域がらですが、まちづくりの役員として参加してくれる人が少ないのが悩みだそうです。

18年度から交流センターの自主

運営が始まり、今年7月にはホームページを立ち上げました。今年新たに整備された里川河川敷広場の除草や管理なども、地域に呼びかけてボランティアを募り、活動を始めました。二人は、学区外からも喜んで訪れてくれる地域にしたい、と張り切っています。

活発な青少年育成の活動 坂下地区コミュニティ推進會

坂下地区のまちづくりの活動拠点、久慈川日立南交流センターで、坂下地区コミュニティ推進會会長の埴昭一さん、交流センター事務長の廣瀬泰和さんにお話を聞きました。

3年前に建設された交流センターは、玄関ホールが広く、明るく開放的な感じで、外には駐車スペースがたっぷりとってあります。

坂下地区は、東小沢小学校と坂本小学校の二つの学区からなり、会の組織は、生涯学習や組織の全体に関わることを担当する総務部と専門的なことを担当する7つの部で構成されています。それぞれの部は体育振興会、文化協会、青少年育成会、社会福祉協議会などがそのまま担当するなど、従来からそれぞれに独自の地域活動を活発に展開し、推進會は連絡協議会的な機能を果たしているそうです。

今年度は、市民体育祭が50周年という節目の年になるので、大洗高校のマーチングバンドをゲストに迎



ふれあいを大切に

え、大々的に記念の大会を開く準備を進めているそうです。

現在、自警団が地域内に多くできて、それぞれ活動を始めています。青少年健全育成や社協の活動も活発に行われています。これらの様々な活動を、さらに有効なまちづくり活動に深めるために、持続的に活動する役員による組織の運営、事務局体制作りなどを進め、地域の結束と活動の活性化などにつなげ、坂下地区という地域の力を高めていきたいとのこと。

埴会長は、今年度に会長に就任したばかりですが、以前に住民のアンケートを元に作成したコミュニティプランに、もう一度立ち戻って、住民の要望にそったまちづくりを進めたいと大変意欲的です。